



努力の量に目を向けよう

「才能」というものがある。目に映るものではないが、勉強、運動、商売、話術など、さまざまな分野において存在している。これには個人差があり、才能に秀でた者は他人よりも好結果を収めることが多い。否定することができない、厳然たる事実だ。かく言う私自身、学生時代に野球をしていた。もし才能があれば、今頃プロの世界で億単位の年俵を手にしていただろうが、そんなことは起きなかった。私も含め、大部分の人は目立った才能を持っていない。

ここで気をつけなければならないのは、才能がないことを逃げの口実にしてしまうことだ。「自分には才能がないからできない」や、「あの人は才能があるからできる」などである。これは本当に恐ろしい。できない自分を正当化して伸びることをあきらめてしまおうし、あまつさえ、できる人をねたむことにもなりかねない。

さて、私が野球をしていたことは先に書いたが、我が母校は野球強豪校ではない。7時間の授業を終えて放課後の部活動に充てる時間は、日没までのせいぜい2時間程度。あと



は家で素振りなどの個人練習をすくらないだ。それに対し、全国大会常連の強豪校は、グラウンドにナイター設備を整えて5〜6時間を毎日練習のために確保する。また、冬場に降る雪に備えて、室内練習場もある。

要するに、積み上げている努力の量に明らか
な差があるということだ。強豪校にいる選手は、
もともと才能を多めに持っている。その選手た
ちが、私よりもはるかに野球の練習に時間を費
やし、努力をしているのだ。かけた時間よりも
内容が重要だという考えもあるだろうが、絶対
的な時間の差がこれだけあつては、多少内容で
勝つていても太刀打ちできない。持っている才
能に差があるのに努力の量でも劣っていたのだ
から、結果がともなうはずがなかったと言えよ
う。

強豪校が全国大会にまで勝ち進むのは、選手
個々の才能があるからという側面もあるだろう。
しかし、そこに多くの努力を積み重ねて、彼ら
は成功を手に行っている。勉強だつてもちろん同
じだ。才能だけで好成绩を収めているという人
は、ほとんどいないはずだ(ごく稀にそういう
「天才」というタイプもいるが)。彼らの才能だ
けに目を向けてうらやんでいても、差が開く一
方で何も解決しない。自分も彼らと同じような
努力をしているかどうか、自問してみることを
オススメする。

学校ごとに採用しているワーク類は違えど、
学校や塾から配布されている教材の個人差は少
ない。つまり、同じ練習環境が与えられている
ということだ。その環境を生かすか殺すかは自
分次第。巻き返しを図っている皆さん、正しい
努力をコツコツと積み上げていくしかないぞ!

(由比)

国語でがんばる

文章読解について

長かった夏休みも終わり、もうすでに二学期

がスタートしています。中学校によっては、も
う中間テスト直前です。テスト勉強、頑張つて
いますか?

さて、今回は国語における文章読解力を向上
させるためにどうすれば良いのか、という話を
します。ただし、国語が得意な人は今までの勉
強のやり方を無理やり変える必要はありません。
あくまで苦手としている生徒を対象に話を進め
ていきます。

【一】文章内容を理解するために、文章中に作業をしましょう

「作業をすること」とはどういうことかわかり
ますか。これは、「文章中に印をつけたり、線を
引いたりすること」です。このような作業をし
たことはありませんか。また、このような作業
をしている人を見たことはありませんか。
なぜ、このようなことをす
ると思いますか。

それは、大事な部分だから、
後から読むときに見やすくす
るため、わかりやすくするた
めでしょう。



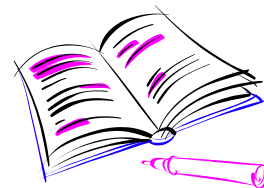
文章内容を理解するためにまず行うことは、
文章を読みながら作業することです。線が引か
れた部分をつないでいけば、大まかな内容をと
らえることができ、文章内容が理解しやすくな
ります。

ここで問題となってくるのは、どこに印をつ
けたり線を引いたりすればよいのか、というこ
とです。中学一年〜三年には一学期の国語の授
業を通して、「文章読解テキスト〈前編〉」を配
布しています。そこに記載されているので、ぜ
ひ参考にしてください。

【二】問題を解いた後の取り組み方で大きな差が生まれます

以前、生徒のノートチェックをしているとき、
非常にシヨクシヨクな出来事がありました。

その生徒のノートは丁寧に使われていて、一
見、とくに問題なさそうに見
えました。丁寧に○×が付い
られ、模範解答は余白部分に
丁寧に赤ペンで書かれていま
した。そのとき気軽に私は生
徒にこんな質問をしてみました。
「この書き抜き問題を間違
えたんだね。模範解答はこれだけれど、これは
文章中のどこにあった？」すると、生徒は「わ
かりません。」と即答してきました。その後よく
話してみると、今まで、問題を解いて答え合わ
せをしたら、それで終わりだったそうです。模
範解答をノートに書くが、それがどこに書いて
あったのか確かめることもなかったそうです。



どの教科でもそうですが、ワークなどに取り
組むのは現在の自分自身の力をはかるためです。
そして、そこから自分自身をレベルアップさせ
るためには、間違えた後、なぜ間違えたのか、
なぜ模範解答はこうなっているのかということ
をとことんまで追求する必要があります。問題
を解いて、答え合わせをするだけで満足しない
てください。成績を伸ばす生徒は答え合わせを
した後の過ごし方を重視しています。

【三】解き直しをしましょう

最後は当然「解き直し」です。解き直しを指
示されても「所々答えを覚えているから」「内容
を覚えているから」といった理由でやらない生
徒がたくさんいます。これはとても残念なこと

です。東大合格者は、模試も過去問も三回解き直すと言います。解き直しにはそれぐらいの価値があるのです。解き直しは「ある程度内容や答えを覚えていた状態」で、解き方・考え方を思い出しながら「まねる作業」のことで、学力向上のために非常に重要な作業です。これから出会う全ての問題で実行してください。本気で伸びたいと思うのなら、必ず実行してください。

(村田)

終わってしまった

夏はとりもどせない

●後悔と自己嫌悪で終わる夏。そして、その気持ちをはきざすまま九月のスタート。悲しいね。つらいね。もっとも、きみだけではない。そんな受験生が、周りにもいっぱいいる。さて、どうしようか。

●勿論、きみは気を取り直して再びがんばり始めるだろう。それは確実だ。しかし、きみはきつと分ってはいないはずだが、**また後悔と自己嫌悪を味わうことも確実だ。**しかも今度は、徹底的にきみを痛めつける。受験までの残り時間が少なくなっているからだ。

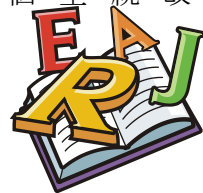
●一体、人生に於いてムダなことはない。回り道にしても、失敗をしても、きみが年齢に応じた成長をしていけば、決してムダにはならない。後悔や自己嫌悪を何回か味わっても、そこから現実を知り、自分の弱さを知り、次の試みのときに工夫をするというように進んでいければよいのだから。ただ、受験において、回り道や失敗をしないですむとしたら、それはその方がよい。何故なら、人生には、山程難問が待ちうけ

ていて、回り道も失敗も重ねてしまうのだから、一つでも減らせば、その方がよいのだ。

●さて、今、後悔や自己嫌悪を味わい、またこの冬にも同じ気持ちをもっと強く味わうはずのきみ。再度いう。どうするんだ。ここが正念場である。再び決意して動き出す前に、よくよく考えることだ。そうすることが、また次に行き詰まったときに立ち上がる力を生んでくれるからだ。

●ということでは原則の確認。

①とにかく続けること。何故、後悔するかというと、勉強が中断するからだ。中断することなく続けられれば、多少やり方にまじい所があっても伸びていく。(また、やる過程で、そのやり方も、また学習能力も改善向上していくものなのだ。)続ける人はとにかくすごい。高2生は、平均して英単語を一日五百個やっている。



②点数が伸びるまでには時間がかかる。ある科目を適切なやり方で勉強すれば、力は着実についていく。ただ、模試は、その科目の総合的な力をみるもので、どこがでてるかは分からない。解答を出すにあたって、複数の道具を使うことも多い。だから、力については、うる覚えの部分が多ければ、点数は、勉強を始める前とほとんど変わらなかつたりする。それでもあきらめずにやること。伸びるまでのある程度の時間。これに耐えることが必要だ。

③学習のリズムが必要。一日だけががんばっても次の日にやらなかつたらアウト！その日に思いついた科目をやっていると、必ず長期間やらな科目が出てきてアウト！英数は毎日やるとき

めて、残りの科目は一日おきとか、とにかくリズムを作ってそれを守ること。ただし、国立大志望の人は、理系の場合、「国社をいつからやるのか」、文系の場合、「理科をいつやるか」がポイントになる。他の主要科目が遅れているなら、十一月まで開始を遅らせることも必要。

④過去問をやる時間を確保する。高校大学受験に限らず、司法試験から医者国家試験、更には運転免許の試験まで、過去問の研究は大切だ。何がどう出ているか。そして、どう解けばいいか。自分が苦手な問題分野は何か。そうしたことは、全て過去問があればこそ分ることだ。九月から、遅くとも十月から、一週に一年分ずつ英数国は過去問を解いていく作業を怠らずに入りたい。

⑤受験生は、(勿論、大学受験生も)、秋から冬にかけて大きく伸びる。夏までの勉強は、いわば知識を入れる勉強。秋からは、それをアウトプットする勉強。夏までに入れた知識を忘れることなく反復しつつ、問題を解く作業を重ねていけば、模試などの点が飛躍的に上がる。



⑥志望校で安易な妥協はしない。高校受験でもある程度いえることだが、大学受験では、いくつの大学でも受験可能である。現役生で七ヶ八校というのも珍しくない。だから、やれる所までやってそれから最終決定するぐらいの気持ちでよい。ただし、勉強もせずに、安易なことを考えて高望みするのは、これを「バカ」という。

⑦同じことをやっているのに、伸びる人と伸びない人がいるがその違いは明確に存在しているのだ。余り考えずにただくり返すだけの機械

的勉強でもやらないよりはずっとましなのだが、考えてやっている人とは大きな差がついてしまう。残念ながら、そのことを指摘してくれる教師は少ない。また生徒も受験勉強の経験がそう何度もできるわけではないから、他の人と自分の違いを「出来る出来ない」以上には分析することはかなわない。「出来る人」に尋ねても、使っている参考書や勉強量を教えてもらえない程度だろう。だから、私がいつてやるのだが、伸びる人は、とにかく考える。調べる。答えがなくてもあきらめない。質問する。細かいことにも、望ましい成果につながるようなこだわりかたをする。例えば、不明の単語があったら、必ず調べたり、一方でその意味を前後からあてようとする。一日だけでは、差は生まれないが、一ヶ月もたつと、考える人と機械的作業の人とは大きな差がつくこととなる。自分はどうなのか、よくよく考えてみるのだ。

⑧「分った」はゼロ。必ず解き直しを。できなかった問題は自分で解けるまでやる。「分った」はダメ。下手すると一日で忘れてしまう。「分った」で勉強を終える人は伸びない。

⑨負の連鎖から脱却する。塾には来る。でも集中しない。課題はやらない。模試は受けるだけ。こういうのを負の連鎖という。やってはいけない小さな失敗を毎日毎日重ねていく。心のどこかではまずいと思いつつ、止まらない。これは自分をだめにする。一時間一時間、歯をくいしばって小さな成功を積み重ねていく人との差は歴然。やるときは歯をくいしばれ。(小林(健))

▼▲継続希望の方へ▲▼

▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
▶在籍していた教室までご連絡ください。